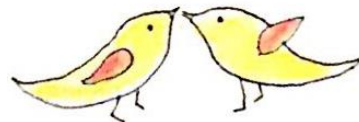
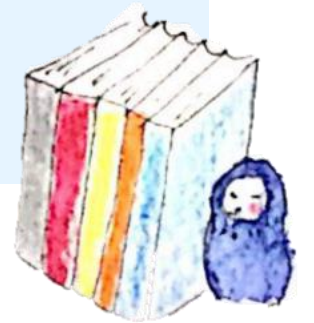


第6回 FLECフォーラム

特別養子縁組と養育里親の育児休業
—課題と展望—



2024年3月8日

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
二葉・子どもと里親サポートステーション
長田淳子

養育里親

「公的養育」を担う

共働き家庭の増加

長期外泊中の子育て
支援サービス利用の難しさ



なぜ里親家庭（家庭養護）が望まれるのか

- ① 安心で安全な場所の提供
- ② 喪失体験に対するグリーフケアの場
- ③ 恒久的な安定した養育者と家庭環境
- ④ 特定の養育者と、地域の一員としての生活
- ⑤ 安定した家庭生活の経験
- ⑥ 自立後の帰れる場所



安定した信頼関係、愛着関係の形成と、
それを基礎にした自己肯定感・自尊心の育ち
切れ目のない安全基地の確保



養育里親について

子どもについて

- 実家族との関係再構築
- 虐待等保護児童の増加
- いつまでいられるのかへの不安
- それまでの生活スタイル
- 発達・アタッチメントの課題
- 忠誠葛藤
- 0歳～18歳までの多様な
ニーズをもつ子ども

里親家庭にとって

- 中途養育という子育て
- 社会的養護への理解
- 実家族関係と家庭復帰
- 地域社会との関係と連携
- 自立支援を念頭に置いた養育



里親自身のセルフケア



■「二次的外傷性ストレス」「二次受傷」

自分自身は、子どものトラウマ体験や被虐待経験、喪失体験を経験していないにも関わらず、子どもと共感的な関係を持つことで、自身も子どもと同じようなストレス反応を経験することがある。

■代理受傷

■共感的疲労

里親として、子どもとかかわるということが、自身の心身に影響することがあること。

共感レベルが高いほど、子どもの体験に共鳴し、影響を受けやすい

⇒自身の心身にも耳を傾けながら、適宜セルフケアを行ってもらう。

里親の心身の状態評価と里親子(実子含む)のバランスのアセスメント。

子どものこれからをつなぐために

子どものペースを知るために

ボランティア休暇の活用
有給取得の応援

「公的養育」を担うことが、
里親の生き方の負担にならないように

子どもの視点に立って養育できるような
余裕をもったスタートが切れるように



ご清聴ありがとうございました。